

## タイトル：高野山の草創

高野山は海拔 800m 以上の山上にある、聖なる高原で、密教の学び、修禪の地です。日本の僧侶、空海として知られる弘法大師(774-835)、によって 12 世紀以上前に高野山真言密教の本部として設立されました。現在でも密教において参拝、学び、そして瞑想の場であります。2004 年に、紀伊山地の霊場と参詣道の一部として、ユネスコ世界文化遺産に登録されました。

聖なる寺院の壇場伽藍に加え、高野山には、117 の真言宗の寺院、高野山の高原を囲む女人道、そして奥之院の聖なる霊園があります。この霊園は、弘法大師の霊廟でもあります。

弘法大師は、中国で密教を学びました。806 年に日本に帰国した際、現在の高野山真言宗を開き、密教の修練ができる中心地を建立できる場所を探しました。言い伝えによると、弘法大師は中国を離れる前に、三鈷杵を日本に向けて投げました。日本に到着した彼は三鈷杵を探し始めました。もともこの聖なる山に住まわれた神道の神々に助けられ、高野山に生えていた松の木の中にあつた三鈷杵を見つけました。壇場伽藍の御影堂の前に今もあるこの木は、来場者も見ることが出来ます。

816 年、嵯峨天皇(786-842)より弘法大師に、高野山を設立する許可が与えられました。年内に建設が始まりましたが、弘法大師は完成前の 835 年に、永遠の瞑想に入られました。その後は、想いが引き継がれ、弟子であり継承者の真善大徳が中心となって弟子たちによって弘法大師が弘法大師の思い描く壇上伽藍を実現しました。今でも弘法大師は奥之院にある御廟で永遠の瞑想に入られており、日本の平和と反映、そして世界中の人々の悟りを祈っているとされています。